



物流ニッポン

発行/月曜日・木曜日 第4126号
購読料/6ヶ月30,600円(税別) ※送料別

©物流ニッポン新聞社 2018 (1969年4月1日第3種郵便物認可)

2018年(平成30年)

10|8

(月曜日)

URL=http://www.logistics.co.jp

株式会社 物流ニッポン新聞社

編集発行人 山田 晋

東京本社 東京都千代田区平河町1-7-20 ☎03-3221-2345

大阪本社 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-3-24 ☎06-6779-5655

全国8支局自社ネットワークの物流総合専門紙

札幌 011-756-5006 名古屋 052-251-8301

仙台 022-741-1723 大阪 06-6779-5655

東京 03-3221-2345 広島 082-836-6866

新潟 025-288-5695 福岡 092-474-5858

流山市長 井崎 義治氏



いざき・よしはる 1954年2月、東京都生まれ。76年立正大学文学部卒、85年米力リフォルニア大学サンフランシスコ大学院人間環境研究科修士課程修了。住信基礎研究所、エース総合研究所を経て、2003年流山市長に初当選。15年から4期目。

「未来創れる」自覚を

—井崎さんの著書『二つの流山になる日』を読ませていただきまして、子育てやすい環境づくりをすれば人口問題は長期スパンで解決する、という解釈でよろしいでしょうか。

井崎 人口減少、少子高齢化が進み、対策が求められていましたが、政府は何も手を打たず、衰退モードに入りました。流山市では04年にマーケティング課を創設し、共働き世帯の定住を目指して市外への発信

—井崎さんの著書『二つの流山になる日』を読ませていただきまして、子育てやすい環境づくりをすれば人口問題は長期スパンで解決する、という解釈でよろしいでしょうか。

井崎 人口減少、少子高齢化が進み、対策が求められていましたが、政府は何も手を打たず、衰退モードに入りました。流山市では04年にマーケティング課を創設し、共働き世帯の定住を目指して市外への発信

—井崎さんの著書『二つの流山になる日』を読ませていただきまして、子育てやすい環境づくりをすれば人口問題は長期スパンで解決する、という解釈でよろしいでしょうか。

井崎 人口減少、少子高齢化が進み、対策が求められていましたが、政府は何も手を打たず、衰退モードに入りました。流山市では04年にマーケティング課を創設し、共働き世帯の定住を目指して市外への発信

先を見据え布石打つ

—第1回は、以前からお会いしたかった、千葉県流山市の井崎義治市長に登場いただきます。

井崎さんは市長として流山市政を「経営」されながら、職務接続を実現された労働者です。物流面でも大きな功績がありましたが、物流施設の開発に着手されました。

2017年に竣工した

「DPL流山」では、入居企業がパートを10人募集したところ、100人の応募があり、驚きました。流山市の物流施設は「生産立地型」のため、車庫内に従事するパート不足

はドライバー不足にも匹敵する大きな問題です。今後も多く雇用機会が創出されると思いますが、計画段階から物流施設の立地を見込んでいたのでしあわか。

井崎 物流施設の敷地

は、もともと240haの水田地帯でした。しかし、水田を結ぶ有料道路が1977年にできため、一部で水はけが悪くなり、水田としての利用ができなくなりました。2007年に県道

は、もともと2